

平成 22 年 4 月 27 日現在

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18320074
 研究課題名（和文） 地理情報システムに基づく言語地理学の再構築
 研究課題名（英文） Reconstruction of Geolinguistics based on Geographical Information Systems
 研究代表者
 大西 拓一郎 (ONISHI TAKUICHIRO)
 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立国語研究所・時空間変異研究系・教授
 研究者番号：30213797

研究成果の概要（和文）：

言語地理学は、本来、方言のような言語に関する情報と言語の外にある様々な情報を、地理空間を介して比較し、そのことにより言語に投影される人間文化の諸側面にアプローチすることを通して、人間の本質に迫ろうとするものである。この目的を達成するのに地理情報システムは格好のツールであり、これを言語地理学に導入することで、言語史の解明に偏っていた言語地理学を本来の方向に舵取りしなおすことができた。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of geolinguistics was to approach to human culture with comparing linguistic data like dialects to outer linguistic data through geographic space.

Since geographical information systems are best tools for the goal of geolinguistics, using GIS has changed the trend of geolinguistics to primary direction.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2007年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2008年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2009年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
総計	14,800,000	4,440,000	19,240,000

研究分野：方言学・言語地理学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：地理情報システム, GIS, 言語地理学, 方言分布, 言語内地理情報, 言語外地理情報, オーバーレイ

1. 研究開始当初の背景

従来の言語地理学では、言語情報のみを対象に分布を分析しようとしてきた。他の地理情報と重ね合わせることの必要性は認識されていたものの、作業の繁雑さから、実際にはなかなか実施されて来なかった。そのような作業上の困難から言語中心の分析に止まり、分布領域間の配列関係のみを焦点化した

相対的歴史研究にとどまるきらいがあった。GISをベースにするなら、位置的配列のみの狭いモデルの世界を脱し、様々な地理情報との関わりの中で方言分布を扱う世界に大きく羽ばたくことができる。

2. 研究の目的

方言情報を地理情報システム

(Geographical Information System: 以下では GIS)に組み込むことにより, 諸種の地理情報と方言分布を総合的に分析する方法を構築し, 言語地理学を新たな方向に展開させることを目的とする。

3. 研究の方法

手法として, 言語研究の世界ではほとんど取り扱われたことがないツール GIS を導入することが大きいことから, GIS に関する十分な知識を持った地理学者と共同で研究を進めるとともに, 直接的に扱える方言分布データをメンバーで収集かつ共有し, 研究打ち合わせを密に行いながら, 知識の共有化をはかり, 積極的な学会発表・論文作成を進めた。

(1)研究打ち合わせ

a. GIS に関する基礎知識ならびに具体的な分析方法の確認, b. GIS を利用する上での問題点の洗い出しと対策を討議した。

(2)方言データの作成・収集

a. 方言データの地理情報化, b. 新規方言データの調査・収集を実施した。

(3)言語外地理情報の獲得

言語外地理情報の整理と収集を行った。

(4)測地系の統一

地理座標フォーマットを世界測地系に統一した。

(5)分析

方言地理情報と言語外地理情報(主に人口, 交通, 標高, 水系データ)とのオーバーレイ(重ね合わせ)を中心に分析を進め, 傾向面分析の利用方法の検討を行った。

(6)成果報告

国内外の学会・各種研究会・研究集会・シンポジウム等で分析結果を報告し, GIS を基盤とした言語地理学の有効性をアピールした。

(7)知見の共有化

得られた知見を共有化するために, a. 代表・分担者間の ML を継続活用するとともに, b. GIS 利用上のマニュアル作成を行った。

4. 研究成果

GIS に関する基本的な知識を獲得するとともに GIS での分析に耐える方言分布データの取得も進んだ。学界においても GIS の活用が理解されて来つつある。

当初は, 既存の言語内外の地理情報をベースに分析を進めることを計画していた。しかし, 研究打ち合わせを通す中で, それだけでは研究目的を達成するためには不十分であることが明らかになり, 研究期間 2 年目から独自の情報構築を開始した。具体的には, 富山県西部の人的交流形成に大きく寄与している庄川の近隣地域を対象に臨地調査を実施し, 同水系流域の 100 地点以上の集落から詳細な情報が収集できた。このデータを共同

研究内で共有化することで, 研究目的と研究素材の繋がりを密にするとともに, 相互批評を通した研究の質を高めることができるようになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 35 件)

1 : NAKAI, Seiichi(2009) “Linguistic Practice and the Centrality of the Cities: On Sustaining the ‘Traditional’ Landscapes and Linguistic Norms” *NEOMAP INTERIM REPORT 2008 RESEARCH*, pp.193-206, 査読: 無

2 : 大西拓一郎 (2008) 「方言資料の現在」『日本語の研究』4-1, pp.69-81, 査読: 有

3 : 大西拓一郎 (2008) 「方言文法と分布」『日本語文法』8-1, pp.85-100, 査読: 有

4 : 大西拓一郎 (2008) 「日本の言語地理学の歩み」『金沢大学日中無形文化遺産プロジェクト報告書』(国際シンポジウム: 日中両国の方言の過去・現在・未来, 金沢大学文学部), pp.41-53, 査読: 無

5 : ONISHI, Takuichiro(2008)

“Proto-Japanese and the distribution of dialects” *Proto-Japanese* (John Benjamins), pp.57-78, 査読: 無

6 : ONISHI, Takuichiro (2008)

“Application of GIS Technology to Studies in Japanese Dialectology” *Linguistic Atlantica* 27-28, pp.76-80, 査読: 有

7 : 中井精一 (2008) 「ことばの研究にとっての社会とは一都市をめぐる人びとの心性をめぐる一」『音声言語研究のパラダイム』(和泉書院), pp.345-358, 査読: 無

8 : 中井精一 (2008) 「地域言語・方言」『日本語の研究』4-3, pp.98-106, 査読: 有

9 : 中井精一 (2008) 「女性器の方言にみる列島の地域史」『方言研究の前衛』(桂書房), pp.460-478, 査読: 無

10 : 大西宏治 (2008) 「工業高校土木科での GIS 活用に関する考察—富山高校の事例—」『自然と社会—北陸—』74, pp.1-9, 査読: 無

11 : 大西拓一郎 (2007) 「方言分布の解明に向けて—原点に帰る言語地理学—」『日本語科学』21, pp.125-142, 査読: 無

12 : 大西拓一郎 (2007) 「『方言文法全国地図』の特色とデータの活用」『日本語学』26-11, pp.26-34, 査読: 無

13 : 大西拓一郎 (2007) 「地理情報システムと方言研究」『方言学の技法』(シリーズ方言学 4, 岩波書店), pp.135-177, 査読: 無

14 : 中井精一 (2007) 「調査データを整理する」『ガイドブック方言調査』(ひつじ書房),

pp.182-186, 査読：無

- 15: 中井精一 (2007) 「東アジア地域共同体と漢字文化圏」『海域世界の重層性とネットワーク』(桂書房), pp.213-238, 査読：無
- 16: 中井精一 (2007) 「地域研究と『方言文法全国地図』—日本語研究の新しい可能性をもとに—」『日本語学』26-11, pp.117-132, 査読：無
- 17: OHNISHI, Koji (2007) “Children's awareness of relationships between their own town and rice field landscapes through the experience of rice planting on the upstream of Tenpaku river” *Geographiedidaktischeforschungen* 42, pp.47-50, 査読：有
- 18: 松丸真大 (2007) 「『確認要求表現』とその分布—否定疑問形式を中心に—」『日本語学』26-11, pp.140-147, 査読：無
- 19: 大西拓一郎 (2006) 「言語地理学の再起動」『日本のフィールド言語学』(桂書房), pp.80-93, 査読：無
- 20: 中井精一 (2006) 「景観・感性・言語」『日本のフィールド言語学』(桂書房), pp.34-59, 査読：無
- 21: 大西宏治 (2006) 「大学生の地図意識にみる地図選好要因の探索的分析」『自然と社会—北陸—』72, pp.1-5, 査読：無
- 22: 大西宏治 (2006) 「子どものための地域安全マップへの地理学からの貢献の可能性」『GEO』2-1, pp.25-33, 査読：有
- 23: 鳥谷善史 (2006) 「GIS を用いた既存地図データベースの試み」『日本のフィールド言語学』(桂書房), pp.189-205, 査読：無

[学会発表] (計 16 件)

- 1: ONISHI, Takuichiro “Diffusing Process of Dialectological Distributions”, SIDG Congress 6, International Society for Dialectology and Geolinguistics, 2009年9月16日, University of Maribor, Slovenia
- 2: 木部暢子・新田哲夫・岸江信介・中井精一・ダニエル=ロング・鳥谷善史 「方言イントネーションの記述について」, 日本語学会 2008 年度秋季大会研究発表会, 2008 年 11 月 3 日, 岩手大学
- 3: 中井精一 「都市の地域特性と敬語行動—北陸富山と伊賀上野に焦点をあてて—」, 変異理論研究会 131 回研究会, 2008 年 11 月 2 日, 岩手県公会堂
- 4: 鳥谷善史 「GIS でことばの変化を描くために—「早川谷グロットグラム」追跡調査報告—」, 日本方言研究会第 87 回研究発表会, 2008 年 11 月 1 日, 岩手大学
- 5: 大西拓一郎 「方言から日本語のルーツを探る」, 第 10 回日本進化学会, 2008 年 8 月

23 日, 東京大学駒場キャンパス

- 6: ONISHI, Takuichiro “Comparing the Distribution of Dialects, Societies and Environments in Japan”, Thirteenth International Conference on Methods in Dialectology, 2008 年 8 月 5 日, University of Leeds
- 7: 大西拓一郎 「地理情報としての方言—方言学と GIS—」空間情報シンポジウム 2008, 2008 年 7 月 23 日, 仙台会場(仙台サンプラザ)
- 8: 大西宏治 “Geography education with global map: A trial class in University of Toyama, Japan”, Global Mapping Forum 2008, 2008 年 6 月 6 日, 国連大学 (東京)
- 9: 大西宏治・安藤純子・伊藤一美 「居住地特性からみる乳幼児とその親の活動空間の特徴—名古屋を事例として—」こども環境学会 2008 年 (東海), 2008 年 4 月 26 日, 名古屋工業大学
- 10: 大西拓一郎 「日本の言語地理学とその課題」, 東ユーラシア言語地理学研究会, 2007 年 12 月 22 日, 青山学院大学
- 11: 大西拓一郎 「日本の言語地理学の歩み」, 国際シンポジウム 日中両国の方言の現在, 過去, 未来, 2007 年 11 月 23 日, 金沢大学
- 12: 大西拓一郎 「方言文法と分布」, 日本語文法学会第 8 回大会, 2007 年 10 月 28 日, 筑波大学
- 13: 大西宏治 「主題図で読む『地域問題』」, 日本国際地図学会地方大会, 2007 年 10 月 20 日, 富山大学
- 14: 大西宏治 「親子でつくる “エコ地図” に現れた環境意識」, 日本環境教育学会, 2007 年 5 月 26 日, 鳥取環境大学

[図書] (計 4 件)

- 1 中井精一・ダニエルロングほか, 南方新社, 2009 年, 『南大東の人と自然』, 343p.
- 2 大西拓一郎, 朝倉書店, 『現代方言の世界』, 2008 年, 120p.
- 3 大西宏治ほか編, ナカニシヤ出版, 『図説世界の地域問題』, 2007 年, 174p.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大西 拓一郎 (ONISHI TAKUICHIRO)
国立国語研究所・時空間変異研究系・教授
研究者番号：30213797

(2) 研究分担者

中井 精一 (NAKAI SEIICHI)
富山大学・人文学部・准教授
研究者番号：90303198
大西 宏治 (ONISHI KOJI)
富山大学・人文学部・准教授
研究者番号：10324443

鳥谷 善史 (TORITANI YOSHIHUMI)
天理大学・文学部・講師
研究者番号：30412133
松丸 真大 (MATSUMARU MICHIO)
滋賀大学・教育学部・准教授
研究者番号：30379218